

千波湖内に入って「魚」たちを調べました

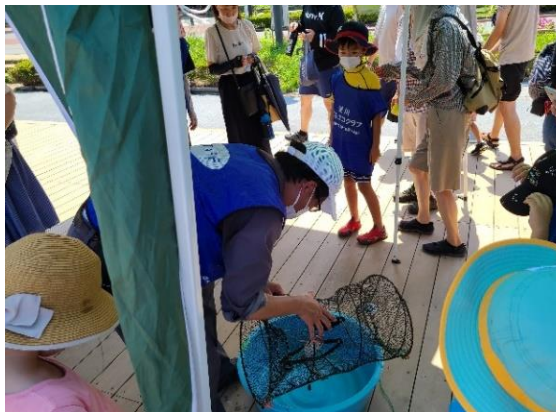
～第5回千波湖環境学習会～

第5回千波湖環境学習会を7月31日に開催しました。開催時の気候は、気温31.9～34.5℃、風速3.6～4.7m/s（気象庁HPより）でとても暑く、新型コロナウイルス感染拡大を防止するため外出自粛が続いていましたが、子どもたちが夏休み中ということもあり、多くの家族に参加していただき、親子合わせて約180名の参加がありました。

※ 千波湖の西側（放流橋から西側）は、通常、生物類の採取や魚釣りが禁止されていますが、特別な許可により、本学習会では実際に千波湖に入って生物を採取することができます。



間隔をあけて魚類等を採取する子どもたち



採取した生き物を取り出す様子

水生生物の採取・観察については、子どもたちが千波湖の浅瀬に入って、手網を使って生き物を採取したり、親水デッキ付近に設置した漁獲用の罟に掛かった水生生物を観察したりしました。

最初に、当協会の講師から子どもたちに、学習会の進め方、水生生物（魚類、エビ等の甲殻類など）の採取の仕方、注意事項等の説明があり、生物の採取に当たっては、講師やボランティアの大人達が子どもたちを常に見守りつつ、生物の取り方を教えたり手伝ったりしていました。

例年はボートに乗って仕掛けていた罟を回収するのですが、昨年に引き続き今年も新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ボートに乗らず親水デッキ付近に設置した罟を回収することになりました。多くの子供達が千波湖に入って魚を採取し、主に低学年の子どもたちは漁獲用の罟を引き揚げました。

今年も千波湖の水は、植物プランクトン（アオコ）が多く発生したため、緑っぽい色をしていて水の底が見えなく、入るのが少し怖く感じましたが、子どもたちは、網と採取容器を手を持って、元気よく水辺に入っていました。膝くらいまで水に浸かり、熱心に魚を探しながらも、ソーシャルディスタンスに気を配りながら行いました。



魚に関するクイズ



採取されたアメリカナマズ

子どもたちが採ってきた魚については、数種類をピックアップして水槽に入れ、皆で観察しました。採れた魚の生態等について講師から説明があり、そのほかにクイズ形式で子どもたちに質問をし、魚の外来種についての学習も行いました。

今年は、罾にアメリカナマズが入り、また子供たちも多くの小魚やエビを採ることができました。在来種を捕食する特定外来生物のアメリカナマズやブラックバスが採取されたものの、在来生物のモツゴ、ヨシノボリ等の魚類、テナガエビ等の甲殻類は例年通り捕れ、普段は大きなコイしか見ることができませんが、外来生物に負けず在来生物が生息できていることを再確認できました。

千波湖で採取された生物（平成30年度～令和4年度）

No	種類		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
1	魚類	在来種	モツゴ	モツゴ	モツゴ	モツゴ	モツゴ
2			タモロコ	タモロコ	タモロコ	タモロコ	タモロコ
3			ヌマチチブ	ヌマチチブ	ヌマチチブ	ヌマチチブ	ヌマチチブ
4			ヨシノボリ	ヨシノボリ	ヨシノボリ	ヨシノボリ	ヨシノボリ
5			ウキゴリ	ナマズ		ウキゴリ	
6	魚類	外来種	コイ	カムルチー	コイ	ブルーギル	アメリカナマズ
7				コイ		コイ	ブラックバス
8							コイ
9	甲殻類	在来種	テナガエビ	テナガエビ	テナガエビ	テナガエビ	テナガエビ
10				スジエビ	スジエビ	スジエビ	スジエビ

※コイの外来生物については諸説あり。

あいさつ及び提供品等ご協力いただきました、ありがとうございます。

飲み物：いばらく乳業株式会社様

消毒スプレー他：花王株式会社鹿島工場様、東部燃焼株式会社様、中央技術株式会社様